

おいおい図書館

No.81

発行
代表
青木 和子
松本市穂台830-60

TEL.0477-36715384

浦安市立図書館へ

行って来ました

今川 和子

久しぶりに青空の広がった5月26日(日)、浦安の図書館を総勢10人で訪ねました。市役所、健康センター等、行政機関が集まっている場所に近代的で大きな図書館がありました。

中に入ると、まず両側にベンチを置いた空間があり、その先、右手が子どもの図書室。身長にあわせた本棚が並び、子どもの読み聞かせの部屋はとてもしンプルに創られていました。読み聞かせは本来、淡々と読むことによって、子

どもが自由に空想を広げられるよう、余計な装飾はいらさないのだそうです。成程と思いました。大人と子どものフロアは、自由に行き来ができるよう、つながっています。

どこもがバリアフリーで、車椅子の人にもとりやすいよう配慮された本棚や、書籍の多さには思わずため息がもれました。ゆったりとしたスベースには

座り心地の良さそうな椅子が置かれ、大きな窓からは、明るい光が差し込み、どこかサロンにでもいるような気分です。

また、この図書館の運営は、専門の職員にまかされ、様々な図書館活動が行われていました。

たとえば 図書館へ来られない人への出前サービス、読み聞かせのための朗読の指導、種々の講演会の主催等です。そして館長は、

「利用者は、なんでも職員に質問してほしい。質問し、相談する事によって、問題点をはつきりさせ、その上で必要な書籍を提供することができるとは、すかし」と、おっしゃいました。

このような理想的な図書館の館長も実は

「図書館に関する条例が何もない」という事に不安を感じておられました。そして、

「全国の図書館活動をしている人達が連携して、条例作りに取り組む時期が来ているのでは」という問題も提起されました。

今回の見学で、私の中の貧しい図書館に対するイメージは一転し、図書館の地域における役割の大き

すを感じると共に、松戸の文化水準の低さを痛感しました。

これから息の長い図書館活動を続けられ、その輪が広がっていく事を願わずにはられません。



浦安市立図書館を 訪ねて

末松 裕人

恒例の浦安市立図書館見学会には参加できなかったものの、おい図書館代表の青木さんから浦安市立図書館友の会主催の講演会に

お誘いいただき一緒に来て。

(5月25日土)

浦安図書館が著名な存在で評価が高いのは今さら指摘するところでもなく、実際に私も何度となく訪ねて密かに(?)利用したこともある。

確かに図書館の内外の環境、蔵書や利用しやすいシステムなど、表面的に利用してもその素晴らしさは実感できる。

しかし、この図書館の真の価値はやはり「人」にあると思う。今回の訪問記でまず記したいのは講演会で講義をされた設計コンサルタントの寺田芳朗氏についてである。数々の公共図書館の建築設計に携わっておられる専門家であるが、その仕事に対する考え方や情熱には学ばされることかとても多かった。

とりわけ「自己責任型社会を支える判断材料を得ることが社

会のインフラとして整っているか図書館行政はそれを担っている」という問題提起には率直に衝撃を受けた。

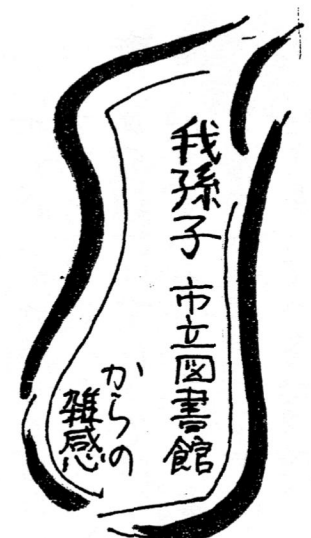
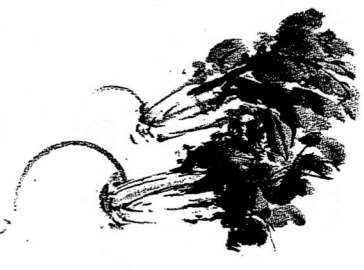
しかし、そんな寺田氏は、実は浦安の図書館建設に携わったわけではない。浦安市立図書館の常世田館長の個人的なご友人のようであらう。類は友を呼ぶとはまさにこのことかと思わされた。

さて、そこで常世田館長はただか私一人を相手に、真摯にかつ熱心に図書館行政や館の運営の理念を語り、細部まで丁寧に案内下さった。その内容は、きわめて示唆に富むものであるが、紙面の制約もあり、また、今さら私が申し上げるまでもなく、すでに、多数の方が学んでいるものと思われる。

私が、あえて申し上げたいのは推測するに今まで本当にたくさん来訪者を迎え、館長にとつては

何回も何回も繰り返させられたそんな機会であるはずなのに、たった一人の私を相手にするのにも、あくなき情熱が感じられたことがある。

常世田館長に代表される図書館職員がこのような情熱が失われないう限り、あの図書館は、どんなに古くなっても、市民に愛され続けるだろう。



塩崎 俊一

自分の人生は自分で決める時代となって、生き甲斐のために学ぶという事は学習というよう楽習の文字がふさわしい。

そして教育は人生のすべてにおいて行なわれる必要があるとして生涯学習が提言されて久しいが、家庭から学校・職場そして地域社会のそれぞれの教育が学習者の立場に立って考えるときに正に到来していると考え、その意味で図書館の果たす役割は従来に増して大きい。今年4月誕生した我孫子の生涯学習

センター内に複合施設として出来た図書館を見てその感を深くした。その名もABIKO+STUDYの頭をとってアビスタは手賀沼公園の緑の中に建つ斬新なデザインとの2階建ての建物で屋上は緑地として9時から日没まで一般開放している。図書館は一階の半分くらいを占め約162㎡の広々とした明るい採光で快適な空間を演出している。蔵書能力は13万冊だが、この素晴らしい環境に魅入らせられて一ヶ月で、昨年一年分の新規登録者を達成したようだ。

そして、体の不自由な人へのサポートも怠りなく用意されている。来館が困難な人には自宅までの宅配。耳の不自由なひとのためにカウンターに筆談用のメモがあり、もちろん手話の出来る職員もいる。眼の不自由なひとのために対面朗読サービスも用意されている。とにかく全体に人間を意識した運営

は、ここアピスタセンター長渥美さんの地域で人と関わる事を喜びとされている姿勢が貫かれています。と思つた。

我孫子市は市民委員会から提出された生涯学習推進計画の推進に向かう準備中であり、見るもの、聞くもの羨ましいかぎりであった。翻つてわか松戸市は中央図書館建設基本構想は存在しても、具體的推進に欠けている。

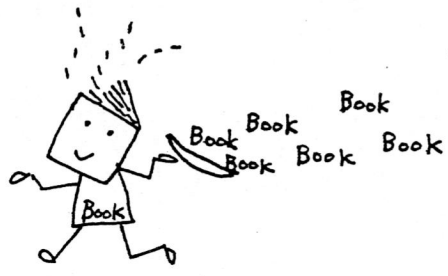
今回たまたま問題になっている伊勢丹前の丸紅マンション14階建ての建築確認はおろたとしても、この1、2、4階を生涯学習設備や図書館機能を市の責任で投入する事は出来ないか？
あらゆる切り口も市民から声をあげないと、我孫子に追い付けないと思つた。



編集後記

今川様、末松様からの浦安図書館見学記、また、塩崎様からの我孫子市「アピスタ」見学記は、共に、早々に頂いたのですが、会報発行が非常に遅れてしまい、ほんとうに申し訳ございませんでした。

この他にも報告すべき事が、多々ありますが、それは次号以降とさせて頂きます。



定例会のお知らせ

11月16日(土) 市民会館 二〇二室
12月21日(土) 市民会館 三〇二室
2003年1月18日(土) 例会后 忘年会(別会場) 市民会館 三〇二室

時間は、いずれも P.M.二時~五時

松戸市教育改革
市民懇話会

中間報告、公聴会が終了し、最終答申作成の段階に入りました。

松戸市の現状を見据えた具體的提言がなされることを、期待します。

(青木和子)